

「令和4、5年度 学力向上研究校指定事業」

研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に迫る授業改善
～学びに向かう力を育てる指導方法の研究～

人を尊ぶ生徒

寄居町立寄居中学校

次第

1. これまでの寄居中の研究について
2. 本校の課題①～⑤
3. 研究主題, 研究仮説, 研究組織, 研究による効果
4. 成果
5. 各部の取組
6. 令和6年度に向けて

1. これまでの研究

- ①平成29、30年度
特別の教科 道徳の研究～考え、議論する道徳への質的変換を通して～
- ②令和3年度埼玉県小・中学校食育指導力向上授業研究
- ③令和4年度における学習指導の研究

これらの研究が財産となり、寄居中の土台となっている。

2. 本校の課題①

～全国学力・学習状況調査および埼玉県学力・学習
状況調査の分析結果から～

(1) 学力を伸ばした生徒の割合は、県平均より高
い数値が出ているが、**2年の数学の伸び**に課
題がみられる。

2. 本校の課題②

～全国学力・学習状況調査および埼玉県学力・学習状況調査の分析結果から～

(2) 3年の国語に関して、思考・判断・表現における

「話すこと・聞くこと・書くこと」に課題がみられる。

2. 本校の課題③

～全国学力・学習状況調査および埼玉県学力・学習
状況調査の分析結果から～

(3) 2年の数学に関して、**数と式、図形、関数の
知識・技能**の定着に課題がある。

2. 本校の課題④

～全国学力・学習状況調査および埼玉県学力・学習
状況調査質問紙の分析結果から～

(4) **学びに向かう力**の育成に課題がある。

2. 本校の課題⑤

- ・寄居中学校の先生方は、教科指導に非常に力を入れている。
- ・寄居中の先生は生徒の悩みもよく聞いている。
- ・寄居中の生徒は自己肯定感や自己効力感が育っていないことが推察できる。
- ・学習に関しても、自信のなさがかがえる。

3.研究主題

研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に迫る授業改善
～学びに向かう力を育てる指導方法の研究～

3. 研究仮説

- (1) 寄居中の授業のスタンダードを確立し、各教科等でねらいを明確にした授業展開をすれば、基礎的・基本的な知識・技能が身につくであろう。
- (2) 各教科等で意図的に学び合い学習を取り入れ、他者と協働すれば、自己の考えを深め、思考力・判断力・表現力が育成されるであろう。
- (3) 主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を積み重ねていけば、生徒の学びに向かう力を育成できるであろう。

3. 研究の指標

○生徒の授業に関するアンケートから

- ①「寄居中スタンダード」の徹底に対するアンケート項目について90%を目標にする。
- ②学び合いの項目について、概ねできているという回答を90%にする。
- ③「自分の学びを実感している」生徒の割合を90%を目標とする。

○教職員の意識等から

- ①「寄居中スタンダード」の授業実施率を100%にする。
- ②「効果的にICTを活用している」の項目を100%にする。
- ③「効果的な学び合い学習ができていた」の項目で100%にする。

3.研究組織

【R4 研究組織】

校長

教頭

研究推進委員会

授業研究・
学習指導部

学級経営部

調査研究部

3. 研究組織

【R5 研究組織】

校長

全校朝会
「学び合い」

教頭

ICTの活用推進

研究推進委員会 (研究主任・主幹・部会長)


授業研究・
学習指導部

学級経営部

調査研究部

小 中 連 携

4. 学力向上に関する成果

- 2.5ポイント高い: 県学調にて2年の数学の伸びた割合 (県との比較)
- 0.2ポイント向上: 中2, 中3の非認知能力 (昨年度との比較)
- 県超え: 中1年の主体的・対話的で深い学びの項目、学習方略、非認知の項目 (小中連携効果)
- 県超え: 中1, 中2, 中3の主体的・対話的で深い学びの項目 (県との比較)
- 4ポイント向上: 中3の実力テストにおいて標準点 (R4の10月との比較)
- 2ポイント向上: 中2の実力テストにおいて標準点 (R4の10月との比較)
- 100%: 「寄居中スタンダード」の授業実施率をににする。(目標100%)
- 100%: 「効果的な学び合い学習ができていた」の実施率。(目標100%)
- 職員研修「帳票作成研修、帳票活用研修、対話プログラム研修、学び合い研修、AI研修、4校学力向上研修、小中連携4校合同研修、教科を超えた研究授業、校長による学び合い全校朝会」
- 学級経営通信、思考ツール、学級力向上プロジェクト、帳票40 (色付け) 全生徒テータ共有
- 出前授業: 9教科で出前授業を実施 (国・算・社・理・外・音・・体・家)
- 97% 生徒: 「寄居中スタンダード」の徹底 (目標90%)
- 88% 生徒: 学び合いについて、概ねできているという回答 (目標90%)
- 89% 生徒: 「自分の学びを実感している」生徒の割合 (目標90%)

4. 本校の課題①への取組成果

～全国学力・学習状況調査および埼玉県学力・学習状況調査の分析結果から～

(1) 学力を伸ばした生徒の割合は、県平均より高い数値が出ているが、**2年の数学の伸び**に課題がみられる。

⇒ (7B→8C, 65.1% 伸びた [県: 8C, 62.6])

4. 本校の課題②への取組成果

～全国学力・学習状況調査および埼玉県学力・学習状況調査の分析結果から～

(2) 3年の国語に関して、思考・判断・表現における

「話すこと・聞くこと・書くこと」に課題がみられる。

→ 「話すこと・聞くこと・書くこと」R5 87.5% (R4 84.0%)

(8C→8B, 47.2[県8B→8A, 53.3])

4. 本校の課題③への取組成果

～全国学力・学習状況調査および埼玉県学力・学習状況調査の分析結果から～

(3) 2年の数学に関して、**数と式、図形、関数の知識・技能**の定着に課題がある。

→ (R5知識技能62.4 [県62.2])

R4 1年 56.6 [県58.5]

4. 本校の課題④への取組成果

～全国学力・学習状況調査および埼玉県学力・学習状況調査質問紙の分析結果から～

(4) **学びに向かう力**の育成に課題がある。

質問項目

「授業中に与えられた課題をしっかりと取り組んでいる。」

→95%の生徒が、「その通りだと思う」、「どちらかといえば、そう思う」と回答。

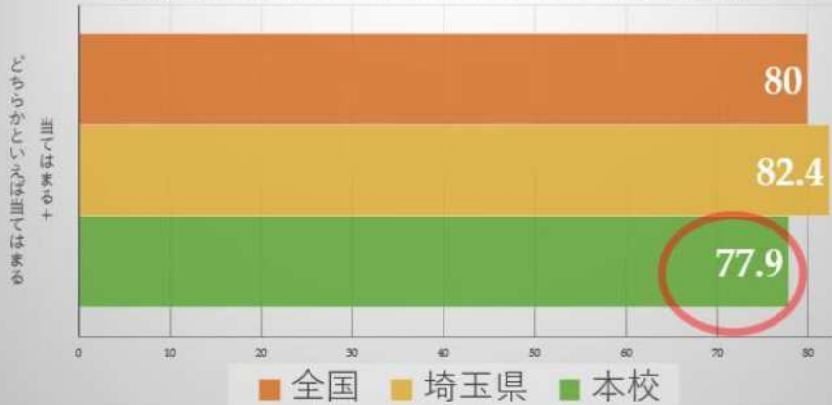
4. 本校の課題⑤への取組成果

- ・寄居中学校の先生方は、教科指導に非常に力を入れている。
- ・寄居中の先生は生徒の悩みもよく聞いている。
- ・寄居中の生徒は自己肯定感や自己効力感が育っていないことが推察できる。
- ・学習に関しても、自信のなさがうかがえる。
 - 自己効力感(1年3.6[3.4]、2年3.2[3.1]、3年3.0[3.1])
 - 質問紙77.9%(国80%)「自分にはよいところがあると思いますか」
 - 質問紙89.4%(国88.9%)「先生はわかるまで教えてくれている」
 - 質問紙67.3%(国66.4%)「先生にいつでも相談できますか」
 - 質問紙98.1%(国94.6%)「人の役に立つ人間になりたいか」

R5

全国学調 質問紙

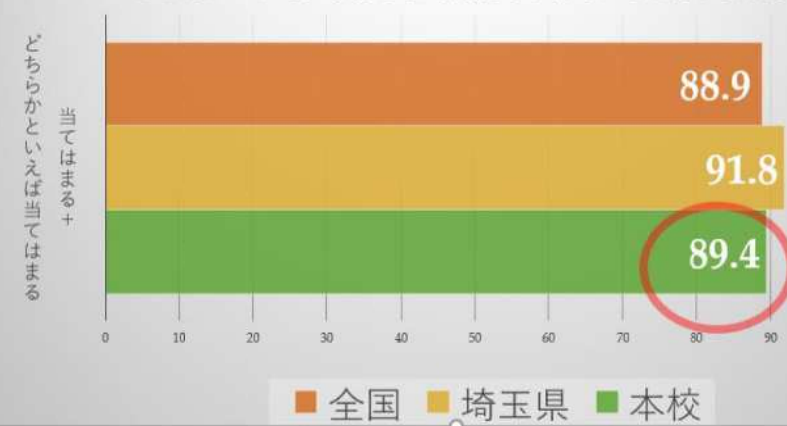
(4) 自分にはよいところがあると思いますか



R5

全国学調質問紙

(5) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思いますか



R5

全国学調 質問紙

(10) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。



R5

全国学調 質問紙

(11) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



本校の課題の捉え直し

- (1) 2年(1年の範囲)の数学の伸び
- (2) 国語「話すこと・聞くこと・書くこと」の思判表
- (3) 数学「数と式、図形、関数」の知識・技能
- (4) 生徒が自分で考える力、学びに向かう力の育成
- (5) 生徒は自己肯定感と自己効力感の育成
- (6) 見届けと自分事

本校の課題①～⑤の対策

- (1) 2年(1年の範囲)の数学の伸び → 復習と学び合い → 4人組(机)
- (2) 国語「話すこと・聞くこと・書くこと」の思判表
→ NIEと学び合い → 隔週で朝学習
- (3) 数学「数と式、図形、関数」の知識・技能
→ ICTと学び合い → 家庭学習(タブレット)
- (4) 学びに向かう力の育成 → 見通す力(計画力)と調整力 → 目標
- (5) 生徒は自己効力感の育成 → 夢の公言と他者との関わり → 立志
- (6) 見届け → 生徒の具体を「即ほめ・直ほめ・陰ほめ」する → 雰囲気

5.研究組織 各部の取組(実践)

授業研究・
学習指導部

学級経営部

調査研究部

5. 各部の取組（授業研究・学習指導部）

教科の特性を活かし、以前研究を行っていた特別の教科道徳の取組を土台とした授業改善・学習指導方法の研究を行う部会

(1) 寄居中スタンダードの確立

→スタンダードの徹底

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に迫る授業改善

→学び合い

5. 各部の取組 (授業研究・学習指導部)

(1) 寄居中スタンダード

寄居中授業のスタンダード

【立案】
すべての教科でスタンダードを使用し、生徒に1時間の授業の概観しをもたせ、生徒が安心感をもって授業に臨めるように。
(1)今日の流れを紙書の左側に提示し、授業の導入段階で流れを生徒に把握させる。
(2)左側の札は2枚重ねにして置き、使用する際に右側に移動させる。


【目的】
主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、学びに向かう力を育てること。

【目標】
ねらいを明確にした授業を展開し、基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせる。

【授業の構成】

段階	内容・方法	留意
導入	・ 出札(流れ)の掲示(左右の札を使用) ・ 授業の趣意(ねらい)を提示して ・ 本時の目標(ねらい)を明確化 ・ 本時の学習目標を明示	・ 生徒に本時の授業の概観しをもたせる。 ・ 目標・課題の設定は、生徒が主体的に取り組みできるように工夫する。
展開	・ 授業のねらい(本時の流れが基本形) ・ 展開(ねらい)活動の充実 ・ 学習者同士の学び合いのスタンダードに基づいて、 ・ 学び合い活動、教え合い活動などを行う。 ・ 問題演習の充実(最後は個人に委ねる)	・ 意図的に学び合い学習を取り入れ、向きと授業し、自己の考えを深めさせ、思考力・判断力・表現力を育成する。 ・ 問題演習の時間も確保し、基礎的・基本的な知識・技能を育成する。
まとめ	・ 本時の授業の振り返りを行う (生徒の発言を取り入れながらまとめる) ・ 振り返り活動の充実 (各教科ごと作成した用紙に記入)	・ 目標(ねらい)の達成に迫ることができたかを振り返らせ、学びに向かう力を育成する。

※教科ごとに札の文書は異なってもよいものとしているが、導入(青)→展開(黄色)→まとめ(赤)の色はすべての教科で統一されている。



5. 各部の取組（授業研究・学習指導部）（1）寄居中スタンダード

目的

- ①ねらいを明確にした授業を展開し、基礎的・基本的な知識・技能および思考力・判断力・表現力の育成を図る。
→ねらい、まとめ（ゴール）
- ②生徒に時間の授業の見通しを持たせ、生徒が安心感をもって授業に臨めるようにする。
→教師も生徒も見通しを持つ（本時と単元）

5. 各部の取組 (授業研究・学習指導部) (1) 寄居中スタンダード

本時の流れ

復習

めあて

課題

問題

練習問題

グループ活動

まとめ

振り返り

①導入・本時の流れを提示 (黒板の左側の札を使用)

- ・既習事項の復習 (必要に応じて)
- ・本時の目標 (ねらい) を明確化する
- ・本時の学習課題を明示

②展開 ・課題解決の時間を確保
(個人→4人グループ→全体の流れが基本形)

※ここで、意図的に学び合い学習を取り入れる

- ・問題演習の充実 (最後は個に戻す)

③まとめ・本時の授業のまとめを行う
(生徒の発言を取り入れながらまとめる)

- ・振り返り活動の充実 (各教科ごとに作成した用紙に記入)

5. 各部の取組 (授業研究・学習指導部) (1) 寄居中スタンダード

美術



社会



数学



国語



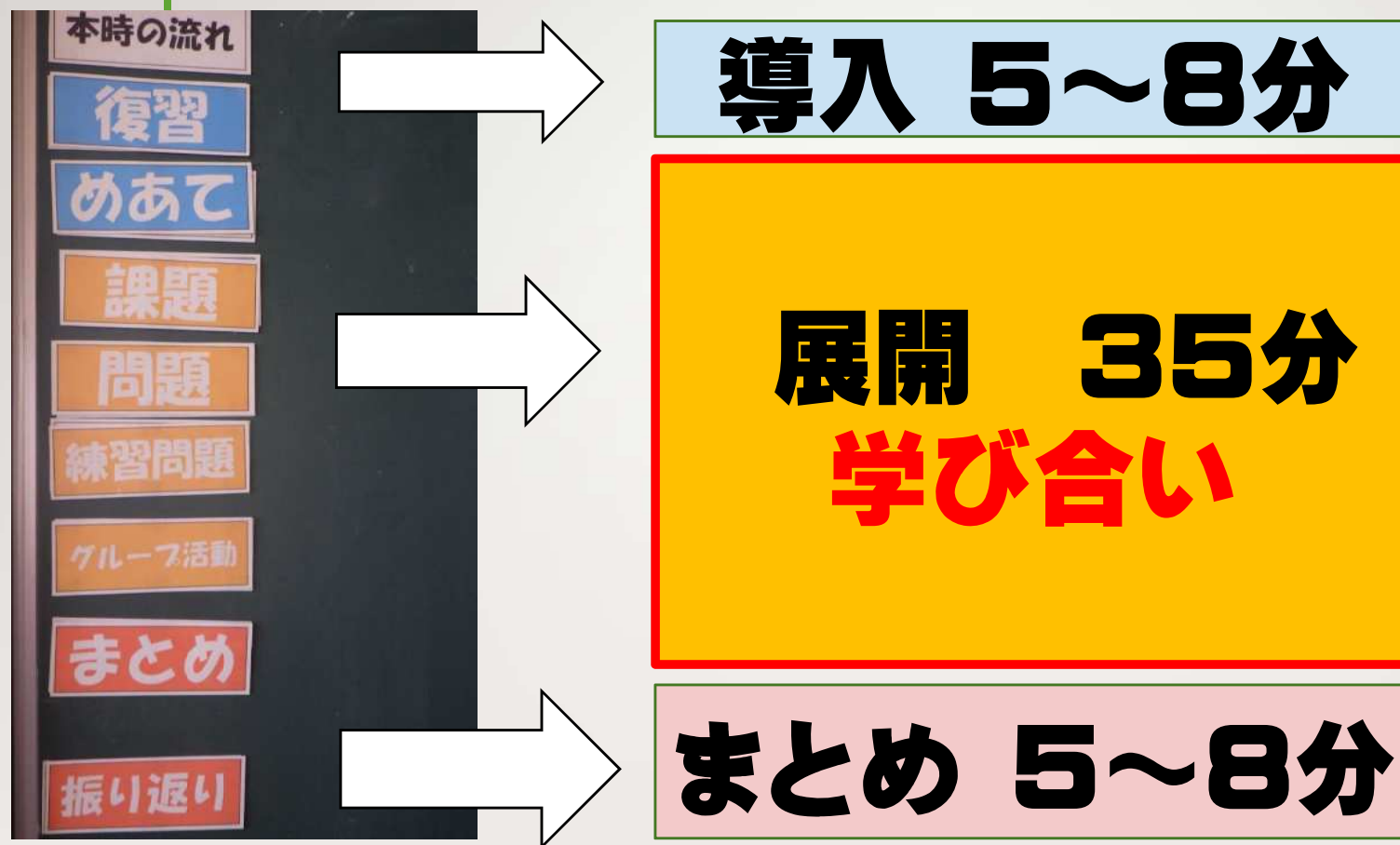
理科



道徳



5. 各部の取組 (授業研究・学習指導部) (1) 寄居中スタンダード



5. 各部の取組 (授業研究・学習指導部)

(2) 寄居中の学び合い

寄居中学校の目指す「学び合い」

【寄居中教師の vision】 学び方を教えることのできる教師

4人組 前時の復習 基礎の学び

発展の学び コーディネーター

役割

- 教師は、学びをデザインする
- 教師は、グループの支援をする
 - ・余計なこと、後出し発言はしません。
 - ・学びのつまづきを支援します。
 - ・教師は、とことん聴きます
 - ・どんな発言も抱き、最後まで聴きます。
- 教師は、とことんつなげます。

(生徒と生徒・教材・授業をつなぎます。答えは教えず、「隣に…」とつなげます。「他には?」「なぜ?」「どうして?」「なんで?」と思考を継続させます。)

※作法2では、やり方を言葉で説明させます。


※作法3では、「大丈夫?」と聞くこと「(分かっていないけど) うん。」と言ってしまおう生徒がいるので、「どこまでできました」という視点をもたせます。

【生徒の学び方 学びの作法】

作法1…こまったな～、仲間にもさこう「教えて」と

作法2…さかれたら、自分のやり方伝えつつ、自分も仲間も「あ～どうか!」

作法3…君の仲間が困ってる、「大丈夫?」「いつでもさいて」と、やさしい声かけ。



5. 各部の取組 (授業研究・学習指導部)



5. 各部の取組 (授業研究・学習指導部)



5. 各部の取組 (授業研究・学習指導部)

小中連携授業 (T2→補足説明→休み時間講義)



R5年度は連携授業の他,9教科で出前授業の実施
国・算・社・理・音・図・体・家・外で実施

学級経営部

信頼関係に基づく学級づくりのために、職員と生徒・生徒同士の好ましい人間関係の構築を目指す部会である。

- (1) 生徒会、中央委員会、学年委員会等による非認知能力の育成と学力向上へ向けた取組
- (2) 好ましい人間関係の育成を目指した掲示物の作成
- (3) 学校行事等に絡めた学級活動の充実

学級経営部



学級経営部



学級経営部



学級経営部

学級経営通信

vol. 10

発行日 7月20日

1 夏休みに担任がしたいこと

夏休みになったといっても7月中は、部活動の指導、三者面談や家庭訪問、年次研修会や教育課程研修会、忙しい毎日だと思います。8月になれば、少しゆとりの時間も生まれてくるでしょうか。しかし、学級の子もたちと会える機会も減ってきてしまいますね。

そこで、学級担任の先生には、子どもたちとコミュニケーションを続ける努力をして欲しいと思います。

【例えは①】電話をかける。※かける時間や対応の仕方など、マナーを守る。三者面談のときに約束しておくのも良いですね。

「元気になっていますか？」

「宿題は進んでいますか？」

「どんなことをして、過ごしていますか？」

「宿題など、困っていることはありませんか？」 簡単で良いのです。



→「宿題に困っている生徒がいたら」

さらにコミュニケーションが取れるチャンスですね。

【例えは②】部活動見学に行こう。

教室とは違った、子どもの輝く姿を見ることが出来ます。他の先生方の部活動指導を学ぶことも出来ます。

【例えは③】子ども理解ノートにメモしておこう！

「子ども理解ノート」を作っていますか？電話した日、話した内容や理解したことなど、簡単に記録しておきましょう。

また、平日頃から、子どもの様子や指導したことをメモする習慣をつけましょう。特に子どもの良い面を見つけた時には、メモしておきましょう。面談を行う際、通知表に子どもの様子を記入する際などに活用できます。

【例えは④】掲示物を工夫しよう！

掲示物を作りたいけれど、授業日はなかなか時間がとれない。そんな先生にとって夏休みは、掲示物をつくるチャンスです。そのクラスに合った、「らしさあふれる掲示物」を作ってみては、いかがでしょうか。

例えば、2学期に入ると、音楽会があります。先生方は、行事に向けてどんな取り組みをする生徒を育てたいですか。そんな生徒たちには、どんな掲示物があったら良いでしょうか。時間があるときに考えてみてください。

音楽会は、「学級力」が高まるチャンスです。「学級力向上プロジェクト」やハイパーQUを活用して、そのクラスに合った活動を考えてみてください。



【例えは⑤】学級の現在地を知ろう！

前述の「学級力向上アンケート」の結果や、「ハイパーQU」を分析して、クラスを客観的にみることに同時に、先生がたの4月からの学級経営も振り返ってみましょう。参考までに、東部教育事務所のHPにあったチェックリストを裏面に載せてみました。お時間のあるときにぜひ。



【例えは⑥】自分の世界を広げよう！

「教育は人なり」という言葉をご存じでしょうか。先生方のレベルアップは、生徒に還元されます。指導する教科を学ぶ、自分の教科を学ぶのはもちろん。様々なことを見聞して、自分の語を広げてみましょう。もしかしら、今まで気づかなかったことに気づけるかもしれません。本を読もう、新聞を読もう、話を聞こう。

【例えは⑦】地域を知ろう！

皆さんは、子どもたちが住んでいるこの地域について、どのくらい知っていますか。地域を知ること、指導にも役立ちます。文化、歴史、人、自然…。意識してみると何か気づくかもしれません。2学期からの聯合にもきっと役立ちます。

学級経営通信

vol. 12

発行日 9月25日

2学期がはじまりました

夏休みが終わって、はや3週間が経とうとしています。先生方、お疲れではないですか。夏休み前までに定めた学級のルールや担任との約束事が、どこかに飛んでしまっていないでしょうか。夏休みの思い出が皆が出せるように呼びかけたり、部活の新人戦も近づいてきています。生徒会選挙も動き出しました。でも、そんな多忙ななか、音楽会が近づいてきています。

NO.11でも書きましたが、学校行事は、生徒が大きく成長するチャンスです。それぞれの行事への取組を通して子どもたちに、どんな力を伸ばしたいのか、担任として目的を明確にして取り組んでください。

また、学級を大きく成長させるチャンスでもあります。行事への取組を通して、互いに思いを理解し、協力し合う機会、高めの思いながら、頑張りを向上していくことが大切です。トラブルもあってもいいですね。でも、そのトラブルを乗り越えることで子どもたちにも考え、悩み、努力していただく。きっと困難を乗り越えた感動を味わい、学級の団結力は高まります。



具体的に？

1 学級スローガン（目標）をつくろう！

- 行事のねらい→学級目標→学級スローガン（目標）
- 学級として、学級スローガン達成に向けてどのように取り組むか共理解する。
- 学級スローガンは、各自のように提示する。
- 学級会や朝の会等で話し合いを通して、意欲を高める。
- 学校行事の事前、事後、当日の体験を生かした指導を行う。
- 生徒の「目標」とは別に、担任は「目的」をもつ。



2 学級での役割を決めて、自主的な活動を促そう！

- 一人一人を生かすチャンス。個性や特徴を生かした役割を与え、活躍させることが、存在感や自己信頼をもたせることにつながる。
- 初めのうちは各委員がどのように活動したらよいのか、具体的に指導する。
- 活動のヒントを与えたら、子どもたちが活動させ、担任は見守る。
- 子どもたちが困っていたら、手を差し伸べるか、子どもたちが自分たちでできた実績できるように、支援の方法を工夫することが重要である。
- （生徒、教員課題によって、どのように支援するか異なる。）
- 学校として、子どもたちの自主的な活動について共理解して取り組むと、学年が上がるにつれて、自分たちで考え、主体的に取り組むことができる子どもたちが成長する。⇒リーダーの育成につながる。
- リーダーを支える仲間をつくりだすことも大切である。



3 個人目標を決めて、努力させよう！

- 学級スローガン（目標）の実現、学級での役割達成に向けて、個人目標を考える。
- 「がんばる」「最後までやりきる」という抽象的な目標でなく、「毎日〇〇を続け、△△ができるようにする。」「〇〇の場面では、こんな声かけをする。」などの具体的な目標を立てる。
- 目標は、学級に掲示して、お互いに励ましあえるようにするとともに、振り返りができるように掲示をする。学級通信にも紹介する。
- 自立しないがむしゃらに努力している姿や、苦手なことにも必死に取り組んでいる姿を見え、評価する。担任がみんなの努力を認めて評価していることを示すことが大切である。子どもたちは認められることで自信をもてる。
- 各行事に関する活動が苦手な子どもたちに寄り添い、支援する。努力することの大切さを教える。努力したことで成長した喜びを味わわせる。



4 当日は、全力で勝利を目指そう！

- 今まで一生懸命努力してきたことに自信をもたせ、胸をはって取り組ませ、感動的な1日に行きましょう。
- 担任は、全力で取り組む姿を見せる。
- 結果に対して喜び、悔むのは頑強な証拠。担任もその気持ちを共有する。
- 全力で勝利を目指すか、結果は水物。結果がどういってではなく、努力した価値ある子どもたちの姿を評価する。
- 互いに抱擁した姿を、相互評価し、称え合う。
- 取組の過程や、やりきった成果を振り返らせ、評価し、今後の目標を立てる。

※参考【若い先生のための「学級経営講座」18]

写真は、保護者のお手紙となり、ぜひ学校会場で行事を盛り上げましょう。

学級経営部



調査研究部

調査の実施、分析を中心となっており、学習指導に活かす部会である。

- (1) 全国学力・学習状況調査の分析
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査の分析
- (3) Hyper - QUテストの実施、分析
- (4) アンケートの検討、実施、分析
- (5) コバトンのびのびシートの活用

調査研究部

CBTでの実施



調査研究部



- ・職員研修で帳票40、28、09、33の分析を行い、生徒一人一人の学力の把握、学年全体の学力レベルや伸びの把握、各教科の達成状況、学力を伸ばした生徒の割合を把握する。

調査研究部



- ・職員研修において、全国学力・学習状況調査問題を全教職員で解き、今求められている資質・能力を知る。
- ・自校採点を全職員で行うことにより、学校の課題を共有する。
- ・生徒の誤答分析を行うことによって、学習指導の改善を図る。

調査研究部



「主体的・対話的で深い学び」の
実現に向けた授業改善 令和4年度版



埼玉県マスコット
コバトン さいたまっちゃん

プラン共通

〇〇学校 校内研修(60分)

全体講義
(20分)

グループによる協議・演習
説明
(3分) (30分)

全体共有
(7分)

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研修プログラムを校内研修において活用している。

調査研究部



- ・埼玉県学力・学習状況調査の結果から中間層の学力を伸ばしている教員の指導法を共有する。
- ・学力を伸ばしたクラスの学級経営方法を共有する。

調査研究部

・伸び悩んでいる中間層の生徒および各クラス2～3名学力に課題のある生徒をピックアップし、その生徒に対しての指導方法を全職員で共有する。

1. R5のデータから国数(英)が中間レベルの生徒ABCを各学年でピックアップ

2. 授業者とAさんBさんCさんを共有する

3. ABCの授業の様子や家庭学習の仕方を共有する

4. ABCの実力テストの変容を追跡

5. 3年生 Aさん標準点5up Bさん標準点4up Cさん標準点2up

4. 学力向上に関する成果（再掲）

- 2.5ポイント高い: 県学調にて2年の数学の伸びた割合 (県との比較)
- 0.2ポイント向上: 中2, 中3の非認知能力 (昨年度との比較)
- 県超え: 中1年の主体的・対話的で深い学びの項目、学習方略、非認知の項目 (小中連携効果)
- 県超え: 中1, 中2, 中3の主体的・対話的で深い学びの項目 (県との比較)
- 4ポイント向上: 中3の実力テストにおいて標準点 (R4の10月との比較)
- 2ポイント向上: 中2の実力テストにおいて標準点 (R4の10月との比較)
- 100%: 「寄居中スタンダード」の授業実施率をににする。(目標100%)
- 100%: 「効果的な学び合い学習ができていた」の実施率。(目標100%)
- 職員研修「帳票作成研修、帳票活用研修、対話プログラム研修、学び合い研修、AI研修、4校学力向上研修、小中連携4校合同研修、教科を超えた研究授業、校長による学び合い全校朝会」
- 学級経営通信、思考ツール、学級力向上プロジェクト、帳票40 (色付け) 全生徒テータ共有
- 出前授業: 9教科で出前授業を実施 (国・算・社・理・外・音・図・体・家)
- 97% 生徒: 「寄居中スタンダード」の徹底 (目標90%)
- 88% 生徒: 学び合いについて、概ねできているという回答 (目標90%)
- 89% 生徒: 「自分の学びを実感している」生徒の割合 (目標90%)

令和6年度にむけて取組

さらに、**学びに向かう力を育てるために**

- ・学カスケジュール開始 → R6学カスケジュールの改善
- ・問題演習の徹底 → 知識・理解の向上へ
- ・NIEと学び合い → 思判表の向上へ
- ・授業改善(スタンダードと学び合い改良)
- ・実力テストでの追跡 → 学習方略を検証しR6へつなげる
- ・効果的な家庭学習 → 主体的な学びへ
- ・計画の立て方と計画の調整の仕方 → 自己調整力の向上へ
- ・目標と目的の明確化 → 自己効力感の育成
- ・具体を褒める(評価する) → 学びに向かう力育成

目指す指標

- ・全国学調 国語(11/15問) → 思判表の書く力向上
数学(8/15問) → 思判表の数学的説明力向上
- ・生徒質問紙 「話を聞き発表する」8割
→ すべての教科で、学び合いで発表
- ・県学調 思判表(国・数・理)6割
- ・自己効力感 全学年で県を超える → 先生方8の約束

来年度につなぐために

①指定教科以外の学力向上

②学力向上カレンダー

③様式3(組織力)

②学力向上カレンダー

全 全国学調 県 県学調 E より E 算数・数学定着テスト Q HyperQU

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
北部事務所								北部学推協 11/16		北部学推協 1/25			
寄居町教委	第1回委員会 4/14			第2回委員会 7/4 支援担当訪問 7/14	学力研修会 8/2			第3回委員会 10/11		第4回委員会 1/30			
寄居町学力向上推進委員会	・より E 土曜塾 (対面・オンライン)												
寄居町学力向上推進委員会	・PDCA サイクルの共有 ・町スタンダードの確認	・町全体の取組や各校の学力向上策の共有	・全国学調問題の分析 ・各校の取組等の共有 ・より E 土曜塾 (対面・web)	学調結果分析、方策立案		・学調の結果分析や方策の修正を共有	・学力向上策の進捗状況等の共有				・今年度のまとめ、次年度に向けた方針等の協議 ・各校の取組評価の共有		・PDCA サイクルの共有 ・寄居町スタンダードの確認
学校	自校の学力向上策	P ・具体方策決定、周知	D(C/A) ・計画に沿って学力向上策に取り組む ・進捗状況の提出、取組の改善 ・NIE 活動	C/A/P ・方策の評価、分析、修正、共有	D(C/A) ・修正計画に沿って学力向上策を進める ・進捗状況の提出、取組の改善 ・NIE 活動	GAP	GAP	GAP	D ・改善計画に沿って学力向上策を進める ・NIE 活動	P ・具体方策決定、周知			
	学調関係	D ・復習シート、コバトン問題集活用した授業 C/A ・全学調分析	GAP	C/A/P ・学調結果分析、ラインズ学力調査問題(R調査問題)に向けた取組	D ・復習シート、コバトン問題集を活用した授業、定期テスト ・R 調査問題	GAP	GAP	D ・R 調査問題結果分析、取組修正	D ・復習シート、コバトン問題集活用した授業、定期テスト ・R 調査問題	CA ・全学調分析			
	学び合い・スタンダード	P ・学び合い、スタンダードの周知、取	D(C/A) ・学び合い、スタンダードを柱とした授業改善を進める	C/A/P ・実施状況の評価、分析、取組の修正 ・スタンダードの改善	D(C/A) ・学び合い、スタンダードを柱とした授業改善を進める	GAP	GAP	D(C/A) ・実施状況の評価、改善	D(C/A) ・学び合い、スタンダードを柱とした授業改善を進める ・個別の指導	P ・学び合い、スタンダードの周知、取			
	学	E 全国学調	E 県学調 CBT						E		E 全		

③様式3 (組織力の向上)

寄居中「だれ」が、「いつまで」に、「なに」を、「どのように」どうするシート

令和〇年 〇月〇日 (〇)

●●部会

- 1 目的
- 2 ポイント
- 3 詳細

	部会名	取組	ねらい	責任者	いつ(までに)行なうか	誰が行うか	どう進めるか	必要なもの	いつ報告するか
共通	全部会	1/9から3/8までの取組	本年度の学びをR6年度につなげる	岡本研究主任が進捗状況を取りまとめる	1/22進捗確認 1/30	岡本、内田徳、岡部	進捗状況の報告掲示、共有(日報からリンク)	進捗状況表、日報とリンク先フォルダ	3/7
1	授業研究・学習指導部	校長先生による授業参観の計画	学び合いの質を高める	岡部	1/30	白石、木下、井上	2月中の授業者と校長予定の調整	予定一覧	1/30計画、2/16中間報告、2/29報告
2	調査研究部	CBT体験実施	R6の県学調の操作方法の体験	内田徳	1/18	原口、永田	確認票、番号確認、時程作成、実施マニュアル配布・説明	時程・マニュアル・確認票・タブレット	1/24
3	調査研究部	1/9～4/18までの学力向上策	R5の学びの定着	内田徳	1/29	小澤	学調類似問題の選択(紙ベース、eラインズ)	復習シート、コバトンシート、	1/30
4	学級経営部	2年生になる準備、最上級生になる準備、進路決定	QUで学級把握 3学期の学級指導を共有する	岡本	1/29	落合、中野、蜂巢	QUの実施、比較・分析 通信の内容吟味	QUテスト 学級経営通信	1/29